

わたしたちに今できることはなにか 動いて 広げた 深めた。



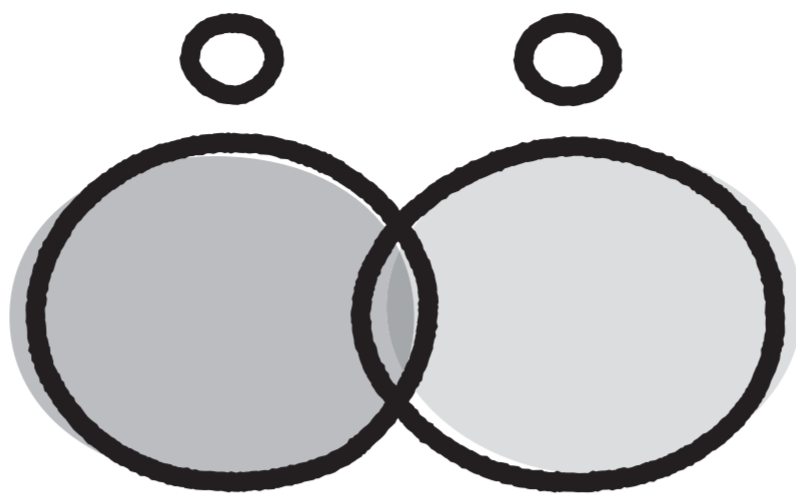
悲しみの展望台。

気仙沼の人たちに親しまれていた安波山。震災では多くの人が避難し、壊れ、流れ流れて行く街を見た場所になった。ここに立つと、あの出来事が紛れもなく現実だったと思わされる。



商いで、町をひっぱる。

人口流出で商売がしにくい状況になっているが、商業が成り立たなければ、町全体の復興も成り立たない。南三陸町さん商店街の店主たちは、この難問に挑戦し続ける。



今できること プロジェクト

【被災地視察バスツアーレポート④】

被災地を訪ねることで わかりあえることがある。

今できることプロジェクトは2月18日、4回目となる「被災地視察バスツアー」を実施しました。今回は気仙沼市と南三陸町の被災地を訪ね、被害を受けた水産加工業の復興に向けた取り組みや、仮設商店街の課題を伺いました。詳細は、今できることプロジェクト特設サイトでもご紹介します。



元気と笑顔、集まる。

気仙沼復興商店街「南町紫市場」。気仙沼市南町や魚町で営業していた54店舗が元気に来訪者を迎える。



満潮時の冠水。

気仙沼の内湾周辺は、震災時の地殻変動による著しい地盤沈下が起きており、満潮時には海水が地面にのりあがる。引いた後も水たまりが残っているところがあちこちに点在する。

フカヒレ守るため ライバル業者と連携

【気仙沼・石渡商店街】

気仙沼のフカヒレ業者石渡商店街は、震災で事務所・工場・倉庫が全壊しました。しかし、すべてを失いながらも3月のうちに再起を決意。気仙沼のフカヒレという世界的なブランドをなくすわけにはいかないという強い思いがあったと言います。業種の違う被災企業数社とともに、事業再建への出資と寄付を募る被災地応援ファンドに参加して資金を集め、新工場建設に踏み切りました。

以前は競合だった業者同士が、石渡商店街専務久保さんの呼びかけで「ふかひれブランドを守る会」を立ち上げ、商売ぬきで連携して、フカヒレ文化を守るため活動しています。「2年経って、自分たちで一人立ちして動き始める時期に来ている。人のつながりを大切にして、気仙沼に来てもらいたい」と話します。



56年の歴史を持つ石渡商店。一人の従業員も解雇することなく、再建に向かって取り組んでいる

仮設から本設へ これから先こそ難問

【気仙沼復興商店街南町紫市場】

ほとんど跡形もなく壊滅した、歴史のある商店街。約160店舗あったうち、54店舗が、この仮設商店街に入りました。

「皆さんに来ていただき買っていただいて、2012年の売上げはおかげさまで好調でした」と話すのは気仙沼復興商店街副理事・坂本正人さん。しかし気仙沼では今住民の転出が続いています。商店にとって、人が減るのは深刻な問題。「この仮設も最長5年間で出ていかなければならない。昔の長屋風に商店が集まって、スーパームもあって、復興屋台村の人たちも協力しあって本設できれば」と坂本さんは考えています。「それまではここでがんばっていくしかない。イベント

トなども行って、たくさん来てもらえるようにしたい。3月には、大きいイベントも計画している」と意気込みを聞かせてくれました。



坂本さんが話しているのは紫市場の2階にある「割烹 世界」の店内。かつて壁一面に高が生い茂っていた、1929年創業の老舗料亭だ

市場だけ復旧しても 背後施設が課題

【気仙沼魚市場】

「世界的には漁業の規模は拡大しているのに、日本の漁業は、1989年をピークに半分以上に減っている」と話し始めた気仙沼漁協組合長・佐藤亮輔さん。全国の雄たる気仙沼漁業のリーダーとして日本の水産業の今を見据えています。

2012年、カツオの水揚げを中心に、大きく落ち込んだ前年を上回る漁獲量をあげた気仙沼漁港ですが、津波で損壊した岸壁の修復工事はまだ継続中です。「市場は港の岸壁ができて海側が戻ってもだめで、背後施設が復旧しないと船も入ってこれない」と佐藤さん。つまり水揚げした魚を保存する冷凍施設などがまだまだできていないのが現状。「この周辺が地盤沈下しているから、土地をかさ上げて、道路を引き直して、冷凍施設や工場をつくらなければならない。これから先は少しずつ目に見える形になっていくはず」と、確実に課題を解決していく道を模索しています。

福が興る市を 元気よく続ける

【南三陸町さん商店街】

南三陸町は大津波で壊滅的被害を受けましたが、地元商店街と町が手を取り合って再び幸せを取り戻そうと、「復興市」を毎月末開催してきました。南三陸さん商店街がオープンしてからは、ここがメインステージ。「町の復興にはまず商売が元気にならないとだめだ。課題はいっぱいあるが、とにかく走り続ける」と復興市実行委員長(山内鮮魚店)の山内正文さん、副実行委員長(及善蒲鉾店)及川善祐さんも「我が前に立って進まない、その後が始まらない」と話します。1万7千人あった南三陸町の人口は今1万2千人。「今後仮設を出て前と同じ店をつくらなくても成り立たないだろう。外から来てもらう観光の要素がいつそう大切になる。そしてそれに見合う新しい商品開発をどんどん見つけたい」と力説していました。



復興市実行委員長の山内正文さん(写真右)は山内鮮魚店店主、副実行委員長の及川善祐さんは及善蒲鉾店店主。それぞれも自店のことより、いつも商店街全体のことを考えている

参加者の声

<p>宮城第一信用金庫 高橋 明彦さん</p> <p>どのような支援、対応が可能か学びたいと思っていました。被災地の方々の話を聞いて勇気を頂きましたので、震災を風化させずに今後も地道に支援を行ってまいります。</p>	<p>鈴木工業 菅谷 淳さん</p> <p>仙台の被災地とは違う、気仙沼・南三陸の復興への問題などを具体的に伺うことができ、また、被災された会社や復興商店街の方の熱意に触れられ、大変感謝を受けました。</p>
<p>エイチ・アイ・エス 石田 愛理さん</p> <p>東京に勤務しておりずっと行きたいと思っていました。現地に足を運び、消費することが少しでも被災者の支援になるのであれば今後も続けていきたいと思っています。</p>	<p>サントリーフーズ東北支社 川田 繁樹さん</p> <p>関東や関西の人は、ガレキが片づけられた状況だけを見て復興が進んでいると思いがちの傾向があります。ほんとうの姿をみんなに伝えていきたいと思っています。</p>

●私たちが、被災地支援のため「今できること」をともに考え、このプロジェクトを推進していきます。

IHI/アヴィエスホーム/アサヒビール 東北統括本部/いのちの電話 震災ダイヤル/岩手日日新聞社/岩松旅館/エイチ・アイ・エス/NTTデータ東北/鹿島建設 東北支店/キリンビールマーケティング 東北統括本部/ケーズデンキ/コセキ/サッポロビール 東北本部/サントリービバ&スピリッツ 東北支社/JA全農みやぎ/JT 仙台支店/鈴木工業/住友生命 仙台総支社/住友林業 仙台支店/青南商事/セキスイハイム東北/石油連盟/仙台コカ・コーラボトリング/仙台商工会議所/仙都タクシー/第一生命 仙台総合支社/大東住宅/タゼン/東海東京証券/東北三菱自動車/一般社団法人 日本手芸学会/日本政策金融公庫 仙台支店/日本製紙/日本製紙クレシア/日本生命 仙台支社/はとバス/東日本大震災事業者再生支援機構/ビルワーク/富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ/ベルモードスズキ/ペロタクシー/北洲ハウジング/ホテル佐助/三井物産/三菱地所グループ/宮城県遊技業協同組合/みやぎ生活協同組合/宮城第一信用金庫/宮城中央ヤクルト販売/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 東北営業本部/河北新報社(順不同)

◎後援/宮城県、仙台市、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会

【お問い合わせ】今できることプロジェクト事務局/河北新報社営業部 tel 022-211-1318